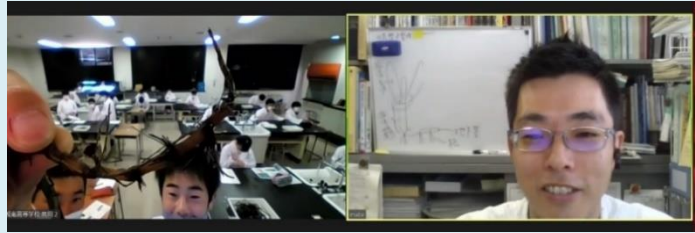


第1学年 理数コース 海洋生物観察実習について

8月17日～19日の3日間で海洋生物観察実習が行われました。本来であれば、山口県下関市にある水産大学校を訪ねて、海辺での実習を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、本校の実験室にて実施されました。オンライン会議システム ZOOM を用い、水産大学校の先生方の講義を受けたり、実習で採集するはずだった海藻や魚類を事前に送っていただいて観察等を行ったりしました。密を避けるために、アマモの観察の班と魚類の同定の班に分けて実施しました。

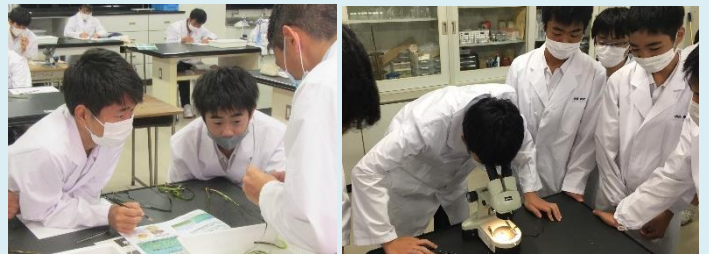


ZOOM を用いた質疑応答の様子

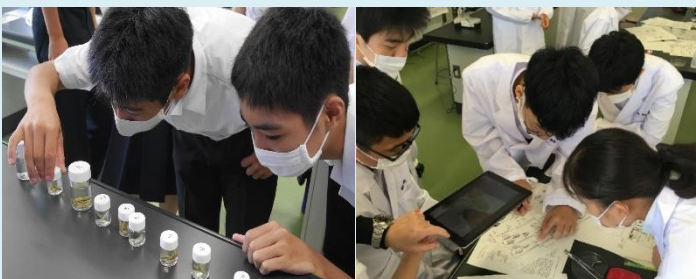
アマモとは海草の一種であり、アマモが茂る場所は多くの種の生物が生息している生物多様性に富む環境となっています。

アマモの観察の班では、アマモの葉や根の構造の規則性に注意しながらよく観察して、スケッチを行いました。平行脈の本数や鋸歯の有無を実体顕微鏡やルーペを用いて観察しました。アマモのことを知らない生徒がほとんどでしたが、実際のアマモに触れ、知れば知るほど興味が湧き、積極的に質問をしながら、観察を楽しんでいました。

魚の同定の班では、観察のために魚をアルコールで化学処理したサンプルをよく観察し、フローチャートに従って魚の種名を調べる作業(同定)を行いました。準備していただいた魚類には、スジハゼ、アミメハギ、ヨウジウオ、オクヨウジ、ホソモエビなどがあり、魚の種類によっては、同定に必要な手順が多く、魚の部位を細かく観察し、1つの種を同定するのに2時間以上かかるものもありました。



アマモの葉を観察している様子



観察する魚を選び、魚の種の同定を行っている様子

今回、現地での実習はできませんでしたが、水産大学校の先生方による多大なる準備やサポートによって、現地での実習内容に勝るとも劣らない充実した学習を行うことができました。全体を通して、生徒達の意欲的な活動の姿が見られ、海洋生物を観察するスキルや興味・関心を高めることができる大変有意義な実習となりました。

生徒の感想より (一部抜粋)

- ・今まで魚をみたときは魚だというひとくくりにはしか見ていませんでしたが、魚やエビの同定を体験してみると特徴を細かい点から見つけていき、そこからどの魚か特定する楽しさに目覚めました。
- ・あらゆることが未知のことだらけであり、新鮮な感覚がした。自分が今まで知らなかったことを知る大切さや、知ることに対して貪欲な姿勢を持つことは自分を様々な方面で成長させることを実感した。